

時間割コード	Q4500902	開講年度	2026				
授業題目	生徒指導の理論と実践【第4欄】					担当教員	田村 徳至
英文授業名	Student counseling and guidance						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限	対象学生	S
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	講義
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・生徒指導の意義と役割について、各種資料（中央教育審議会等の各種審議会や学習指導要領、国立教育政策研究所など）を基に説明することができる。 ・学校における生徒指導の現状分析を通して、生徒理解の必要性和指導のあり方を説明することができる。 ・教育現場で抱える生徒指導上の諸課題の対応方法について、説明することができる。						
(5)授業のキーワード	生徒指導、いじめ、不登校、少年非行、暴力行為、その他問題行動						
(6)授業計画	第1回:生徒指導とは何か(オリエンテーション、授業計画と概要、授業方法と評価に関する説明など) 第2回:生徒指導の意義と課題(生徒指導の概念と目的、生徒指導の領域・内容、生徒指導の今日的課題) 第3回:生徒指導と教育課程との関連(生徒指導と教科との関連、生徒指導と道徳との関連、生徒指導と特別活動との関連) 第4回:生徒指導の組織と計画(生徒指導の組織体制、生徒指導における外部機関の活用) 第5回:児童・生徒理解(児童・生徒理解の意味と機能、児童・生徒理解の領域・内容、児童・生徒理解のための資料収集の方法) 第6回:生徒指導の方法 ―集団指導(集団指導の意味と意義、集団指導の形態、集団活動の指導、集団の評価と集団指導の観点) ＊6月上～中旬に中間レポートを課す 第7回:生徒指導の方法 ―個別指導(教育相談の意義と目的、教育相談の理論、相談担当者の基本的態度、教育相談のすすめ方、学校教育相談の限界、家庭・関係諸機関との連携) 第8回:進路指導の理論と方法（進路指導の変遷、進路指導・職業指導・キャリア教育との相互関係） 中間レポート（テーマ発表）6月下旬の授業時締め切り 第9回:進路指導の理論と方法（進路指導のツール、キャリアの基礎理論） 第10回:進路指導の理論と方法（進路指導とキャリア・カウンセリング） 第11回:問題行動の理解と指導（問題行動の種類） 第12回:問題行動の理論と指導（問題行動の原因・処遇） 第13回:ケーススタディ（いじめ・不登校の実態と対応） 第14回:ケーススタディ（インターネットに関わること・SNSの現状・理解・対応） 第15回:いじめ防止対策推進法の解説（授業の最後にアンケートを実施する 15分間）						
(7)成績評価の方法	・毎時間課すミニレポートの評価基準 講義内容を理解しているか（5点）、文章量が適切であるか(5点) 150点満点 ・中間・期末レポートの評価基準 中間レポート 「例：授業時における生徒指導について」25点満点 期末レポート 「例：いじめについて学級担任としてどう指導するか」25点満点 ・論題に正対し、具体的な教育方法が記載されているか。 ・文章量が適切であるか。 合計200点満点を100点満点に換算して評価する。 【注意事項】 ・初回の講義時に詳細を説明する。						
(8)成績評価の基準	中間・期末レポートの評価基準は、以下の通り。 生徒指導に係わる様々な事象とその対応と理論的な内容を正しく理解した上で、現代の教育課題に対する自身の考えを明確に述べていることができる。 テーマに正対した適切な先行研究（論文）の内容を1本以上踏まえた上で、その内容を自身の論に援用できている。 第三者が初見でも筆者の論の展開を追えるような、論理的かつ的確な説得的記述が行われている。 論の内容が常識的な生徒指導に対して新しい見方を提示するものであれば「卓越している」。からの四項目を満たしていれば「かなり上にある」。および、の二項目ができていれば「やや上にある」。ができていれば「水準にある」。 毎回課すりアクションペーパーでは、以下の三段階で評価を行う。授業の内容を踏まえた上で、自分の考えを分かりやすく記述されていれば「かなり上にある」、授業の内容が踏まえられていれば「やや上にある」、自分なりの考えを述べていければ「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	・事前に「生徒指導提要」の関係するところを熟読しておくことが望ましい。 ・事後は、授業で使用したスライドをeAlpsに掲載するので再確認することが望ましい。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学修が必要である。						

(10)履修上の注意	授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。 初回のガイダンスでは、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うため、履修予定者は、必ず出席すること。 教科書は、文部科学省発行の生徒指導提要を使用するので、必ず事前にダウンロードまたは冊子を購入すること。
(11)質問,相談への対応	質問・相談は毎時間の授業前後とメールで随時、受け付ける。 メールアドレスはtamura@shinshu-u.ac.jp
(12)授業への出席	○リアクションペーパーの提出（400字程度記述）をもって出席とする。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	○授業内容のレジュメをeAlpsに掲載するので、それを見て学修する。質問も可。
【教科書】	「生徒指導提要」令和4年12月,文部科学省 を各自で文科省のHPからダウンロードしておくこと。印刷しなくともよいが、教員採用試験受検を考えている学生は、紙媒体でも所持しておくことをお勧めする。
【参考書】	指定しない。授業時に関係する書籍を紹介する。